

第2章 調査対象地区の選定

1. 調査対象地区の選定方法

生物多様性の保全と資源の持続可能な利用に係る伝統的な知恵を収集するため、生活や生業に係る自然資源が存在し、また地域の自然や生活との関係の中で営まれてきた祭礼や年中行事などが継承されている地区を調査対象とした。また伝統的な知恵を今後活用することを想定して、自然資源を活用した交流活動などの取組状況なども考慮した。

このため、生物多様性の持続可能な利用に係る伝統的な知恵の収集に当たっては、まず、自然資源、歴史的資源の分布状況ならびに地域における交流活動の取り組み状況などの現状を把握した上で、以下の、およびを満たす調査対象候補地を選定し、「. 民俗に関する調査・研究が行われている地区」「. 森エリア（里山） 里エリア（川辺） 海エリア（海辺）のそれぞれの地区から選定」「. 三河湾に流入する主要河川の上流域・中流域・下流域のそれぞれから選定」の3点を満たすよう、候補地から調査対象地区を選定した。

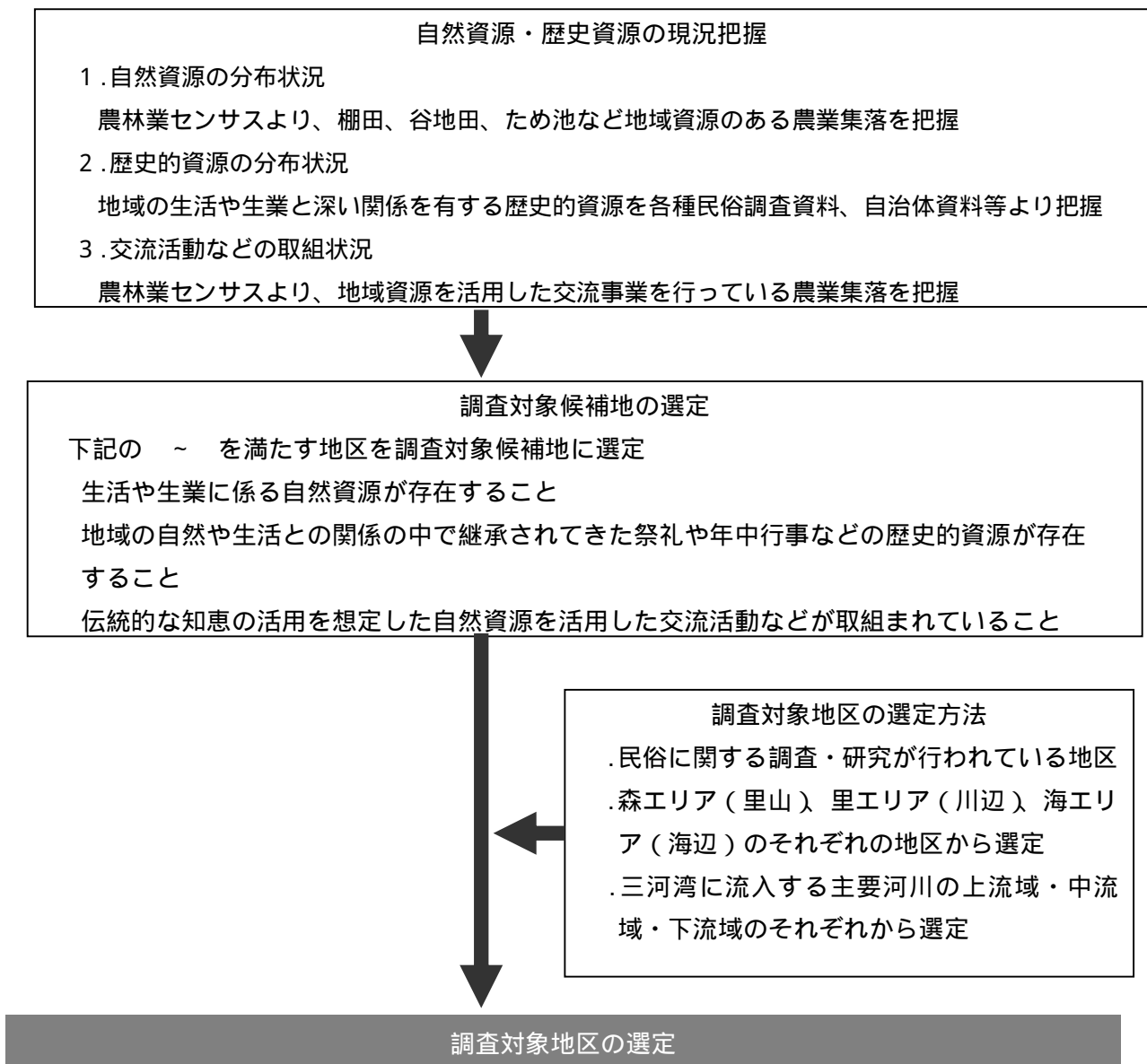


図 2-1：調査対象地区選定の流れ

2. 自然資源・歴史資源の現況把握

(1) 自然資源の分布状況

生活や生業に係る自然資源として棚田・谷地田・ため池を取り上げ、棚田・谷地田・ため池が地域内に存在する農業集落を把握した。

地域資源としての棚田、谷地田、ため池を有する集落は、知多半島、渥美半島のほぼ全域、および三河湾沿岸域の一色町、吉良町、幡豆町、蒲郡市ならびに、大府市、豊明市、東郷町および豊田市西部は連続して分布している。また、恵那市、新城市、豊川市は点在して分布している。

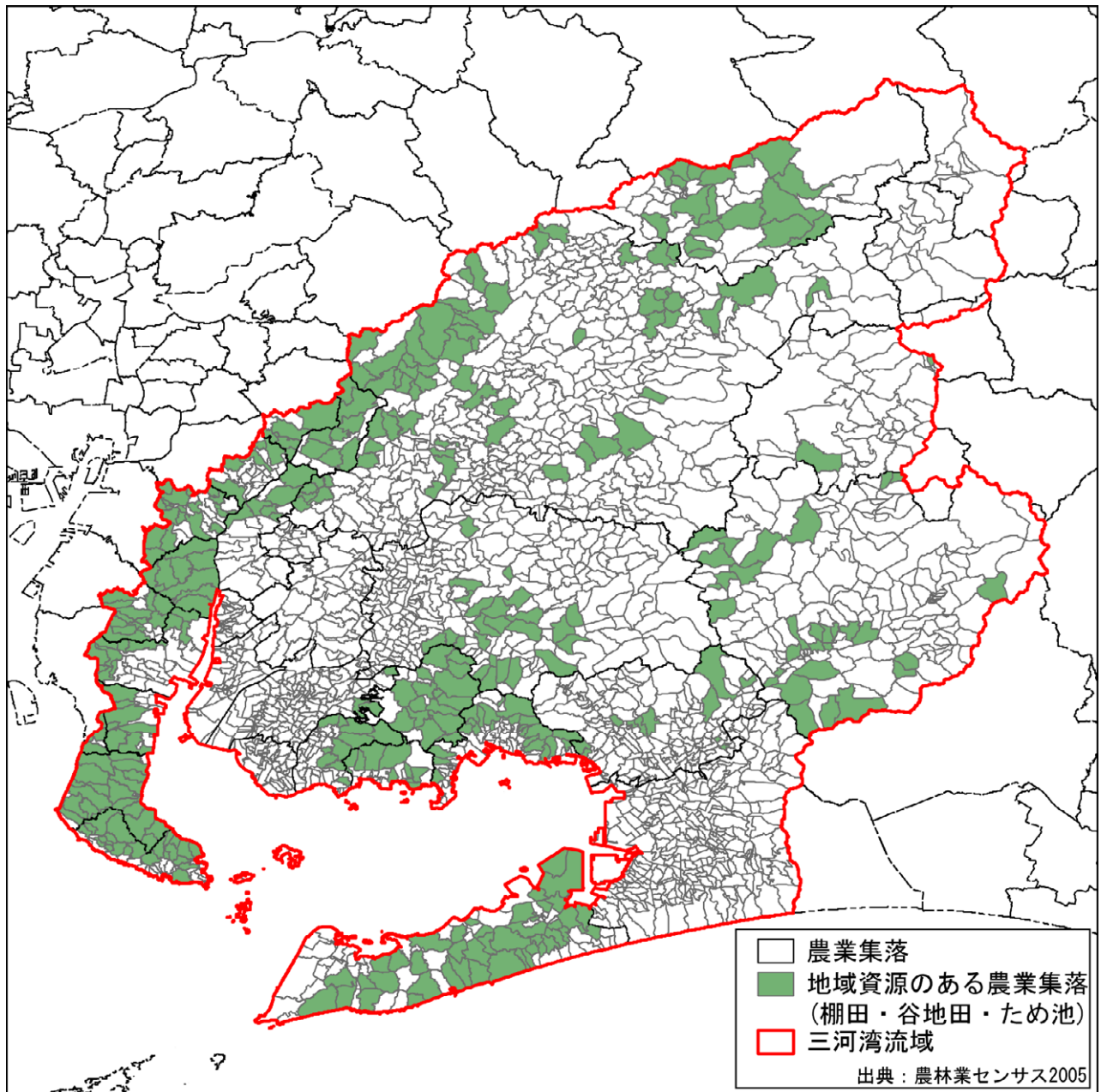


図 2-2：地域資源のある農業集落

(2) 歴史的資源の分布状況

地域の生活や生業と深い関係を有する歴史的資源を把握するため、指定無形民俗文化財、既存民俗調査の実施場所、生物多様性保全を基礎とした持続可能な地域づくりを支える可能性をもった市民・地域の取組に資する事例¹、および地場産業が継承されている場所の分布を把握した。

歴史資源の分布状況は、図 2-3 に示すとおりであるが、三河湾流域全域に点在している。

表2-1：指定無形民俗文化財一覧

No	指定区分	名称	地域	No	指定区分	名称	地域
1	国指定	三河の田楽	南設楽郡鳳来町門谷鳳来寺	23	県指定	田貫の棒の手	西尾市田貫町
2	国指定	三河の田楽	南設楽郡鳳来町門谷七郷黒沢	24	県指定	坪崎の火鑽神事	東加茂郡旭町坪崎
3	国指定	三河の田楽	北設楽郡設楽町田峯	25	県指定	田峯念仏踊	北設楽郡設楽町田峯
4	国指定	豊橋神明社の鬼祭	豊橋市八町通	26	県指定	南設楽のほうか	新城市大海
5	国指定	知立の山車文楽とからくり	知立市山町	27	県指定	南設楽のほうか	南設楽郡鳳来町
6	国指定	知立の山車文楽とからくり	知立市本町	28	県指定	足助の棒の手	東加茂郡足助町五反田
7	国指定	知立の山車文楽とからくり	知立市中新町	29	県指定	足助の棒の手	東加茂郡足助町豊岡
8	国指定	知立の山車文楽とからくり	知立市西町	30	県指定	足助の棒の手	東加茂郡足助町追分
9	国指定	三河万歳	安城市	31	県指定	参候祭	北設楽郡設楽町三都橋竹平
10	国指定	三河万歳	西尾市	32	県指定	千万町の神楽	額田郡額田町千万町
11	国指定	三河万歳	額田郡幸田町	33	県指定	桜井町の棒の手	安城市桜井町
12	国指定	綾渡の夜念仏と盆踊	東加茂郡足助町綾	34	県指定	乗本万燈	南設楽郡鳳来町乗本
13	県指定	滝山寺鬼祭	岡崎市滝町	35	県指定	信玄原の火おんどり	新城市竹広
14	県指定	菟足神社の田祭り	宝飯郡小坂井町小坂井	36	県指定	えんちよこ獅子	高浜市青木町
15	県指定	銭太鼓	豊田市駒場町	37	県指定	大脇の梯子獅子	豊明市栄町
16	県指定	西尾のてんてこ祭	西尾市熱池町	38	県指定	大獅子・小獅子の舞	半田市成岩本町
17	県指定	神明社の火祭	幡豆郡幡豆町鳥羽	39	県指定	進雄神社の奉納綱火	豊川市豊川西町
18	県指定	松平の棒の手	豊田市猿投町	40	県指定	設楽のしかうち行事	南設楽郡鳳来町
19	県指定	猿投の棒の手	豊田市猿投町	41	県指定	知多の虫供養行事	阿久比町
20	県指定	藤岡町の棒の手	西加茂郡藤岡町飯野	42	県指定	板山獅子舞	半田市板山町
21	県指定	拳母の棒の手	豊田市猿投町	43	県指定	万燈祭	刈谷市銀座
22	県指定	旭町の棒の手	東加茂郡旭町大坪				

¹ 生物多様性保全を基礎とした歴史的に蓄積された在来の知（実践、生態、社会関係、価値観、技術・技法など）のうち、現代の科学技術・制度などの媒介によって現代に活かされるものを「地域知」と定義し、このうち在来的な農林漁業に関わる知など、生物多様性保全を基礎とした持続可能な地域づくりを支える可能性をもった市民・地域の取組に資する事例（環境省中部地方環境事務所「平成 21 年度エコミュージアムを活用した持続可能な地域創出のための調査」）

表2-2：過去の民俗調査実施場所

No	調査内容	調査対象地域	調査名
1	持続可能な自給的農林業	足助	愛知県民俗資料緊急調査報告(S48)
2	持続的な山の利用と管理	稲武	愛知県民俗資料緊急調査報告(S48)
3	土地条件に応じた土地利用	駒場	愛知県民俗資料緊急調査報告(S48)
4	半農半漁の生活の工夫	鳥羽	愛知県民俗資料緊急調査報告(S48)
5	海の持続的な資源の利用と管理	佐久島	愛知県史民俗調査報告書 2 西尾・佐久島(1999)
6	渥美湾岸の海と里の複合利用	田原市石神	三河湾尾環境とくらし
7	土地条件に応じた土地利用(台地、低地、自然堤防)	西尾市	愛知県史民俗調査報告書 2 西尾・佐久島(1999)
8	土地条件に応じた土地利用(台地、低地、自然堤防)	一色町	愛知県史民俗調査報告書 2 西尾・佐久島(1999)
9	霞堤の生活	豊橋市当古	当古の民俗

表2-3：持続可能な地域づくりを支える可能性をもった市民・地域の取組に資する事例

No	事例	地域	継承されている地域知
1	新田開発	西尾市	自然特性を踏まえた空間利用
2	新田開発	一色町	自然特性を踏まえた空間利用
3	壁土としての利用	豊明市沓掛	自然特性を踏まえた空間利用
4	六条潟における資源の計画的な管理	豊橋市	自然資源の持続的な管理・利用手法
5	河川環境に配慮した内水面漁業	矢作川	自然資源の持続的な管理・利用手法
6	霞堤	豊橋市	自然特性を活用した技術
7	多段階・多目的利用(とや場、狩猟)	奥三河	自然資源の多段階利用
8	四谷千枚田(資源を活用した活性化)	新城市四谷	自然資源を活用した地域経営

表2-4：地場産業一覧

No	名称	No	名称	No	名称	No	名称
1	土人形師	23	線香つくり	45	木地師	67	竹細工職人
2	鬼板師	24	神輿	46	左官	68	屋根屋
3	桶職	25	木挽	47	指物師	69	鍛冶
4	土人形職	26	井戸堀	48	炭焼き	70	杉皮
5	彫刻師	27	宮大工職	49	矢師	71	硯工
6	紋章上絵師	28	木魚製造	50	木地師	72	砥石
7	製樽	29	石積職人	51	漆かき	73	石工
8	印二誂(菰樽づくり)	30	野鍛冶職	52	紙漉き	74	桶職
9	船大工	31	石工職(積石)	53	石工	75	屋根屋
10	染色業	32	石工職(墓)	54	指物師	76	鍛冶
11	畳屋	33	草屋根葺き	55	瓦屋	77	籠屋
12	黒瓦製造	34	うるしかぎ漆工職	56	船大工	78	左官
13	ホウロク	35	和傘職	57	鍛冶屋	79	ソギ屋
14	クド屋	36	藤箕職	58	筆づくり	80	ソギ屋
15	風炉師	37	和紙漉(森下紙)	59	屋根葺き	81	大工
16	タコガメ	38	かご屋	60	大工	82	セメント瓦製造
17	鬼板師	39	指物師	61	宮大工	83	セメント瓦製造
18	かご屋	40	桶屋	62	石工	84	製炭者
19	凧作り	41	下駄屋	63	桶屋職人	85	先山
20	竹細工	42	桶屋	64	下駄屋	86	鍛冶屋
21	屋根葺	43	鍛冶屋	65	下駄屋	87	だしや
22	野鍛冶	44	修羅	66	鳶職		

出典：愛知の諸職 - 諸職関係民俗文化財調査報告書(1986) 愛知県教育委員会

表2-5：これまでに実施された「聞き書き」一覧

No	職種	所在地	実施	No	職種	所在地	実施	No	職種	所在地	実施
1	椎茸栽培	長野県下伊那郡根羽町	森の聞き書き甲子園	8	きのこ研究家	愛知県西尾市宮町	森の聞き書き甲子園	15	椎茸栽培	愛知県豊橋市	森の聞き書き甲子園
2	へぼ捕り(蜂の子捕り)	愛知県南設楽郡鳳来町		9	野鍛冶	愛知県北設楽郡設楽町		16	樵・そま師	愛知県新城市	
3	間伐・枝打ち	愛知県西加茂郡小原村		10	漆掻き職人	愛知県豊田市		17	矢師・竿師	愛知県豊田市	
4	養蜂家	愛知県田原市		11	空師(吊し切り)	愛知県南設楽郡作手村		18	椎茸栽培	愛知県豊田市	
5	草木染め	愛知県豊田市		12	竹細工	愛知県岡崎市		19	塗師	愛知県北設楽郡設楽町	
6	間伐・枝打ち	愛知県東加茂郡旭町		13	養蜂家	愛知県西加茂郡三好町		20	(地域在住者14名)	岐阜県恵那市上矢作町・串原	
7	磨き丸太づくり	愛知県額田郡額田町		14	茅葺き職人	愛知県新城市					山里文化研究所



(3) 交流活動などの取組状況

交流事業(観光客受入、産地直送、体験学習等)を実施している農業集落を下図に示す。交流事業として、「農山村地域資源を活用した観光客の受入」、「産地直送を介した交流」、「児童、生徒の農林業体験学習の受入」、「農林業ボランティアを介した交流」と取り上げた。

沿岸部の吉良町、安城市、岡崎市東部、豊田市北部、根羽村などに地域資源を活用した交流事業を行っている集落が分布する。

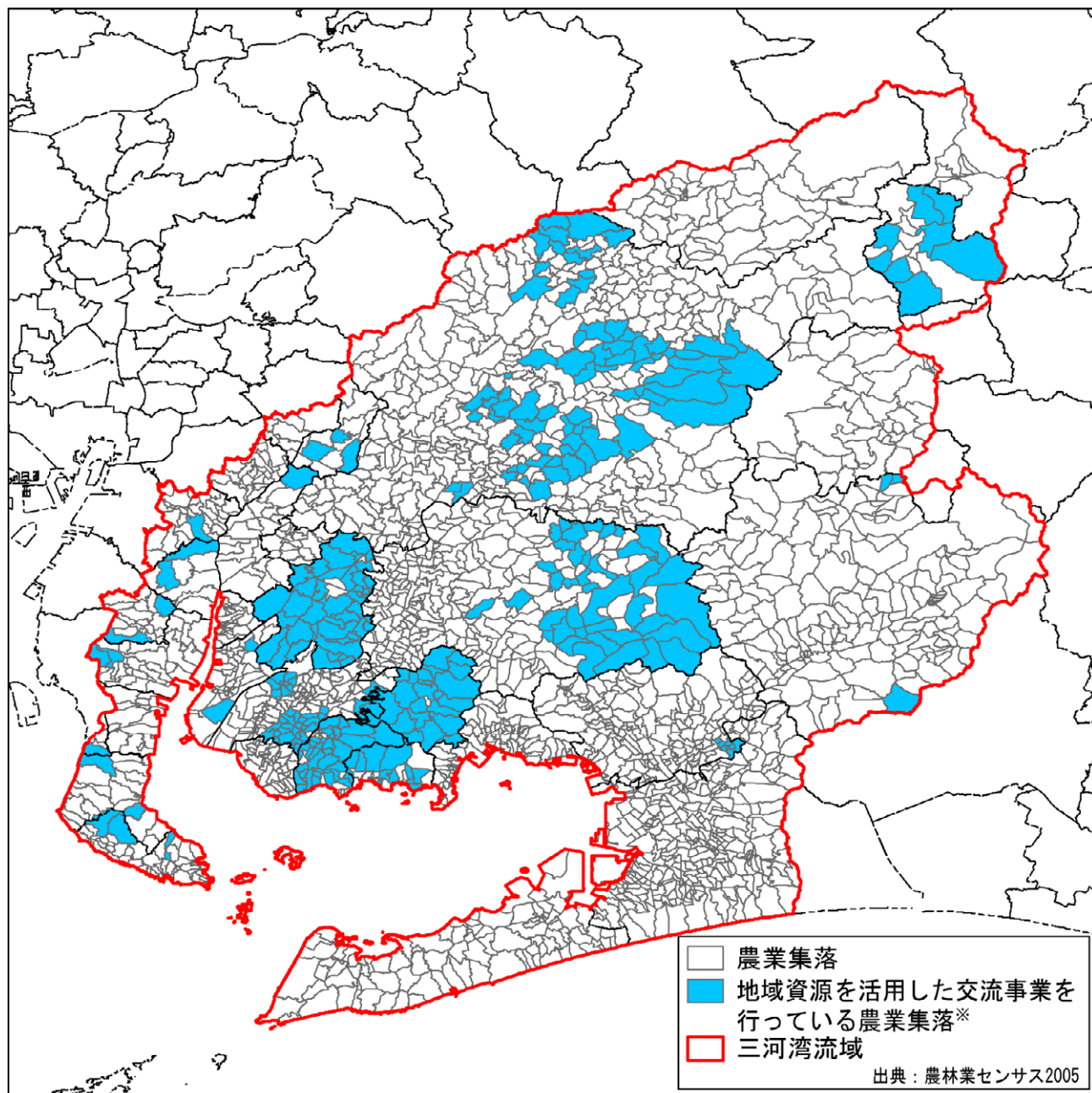


図 2-4 : 交流事業を実施している農業集落

3. 調査対象地区の選定

(1) 調査対象候補地の選定

自然資源・歴史資源の有無および交流活動の状況より、山エリア6地区、里エリア3地区、海エリア4地区の計13地区を調査対象候補地として選定した。

表2-6：調査対象候補地 概要

番号	山里海	地域名称	既存調査・資料	市町村	既存調査地区	特徴的な要素
1	山	稲武	愛知県民俗資料緊急調査報告(1973)	愛知県豊田市	夏焼	山仕事、山の神、焼畑(地名)
2	山	足助	愛知県民俗資料緊急調査報告(1973)	愛知県豊田市	綾渡	山村の自給的生活
3	山	恵那:中野方	山里文化研究所(2010)	岐阜県恵那市	中野方	山仕事(林業、採集、工芸)、養蚕、山間地での農業
4	山	恵那:木曾川北	山里文化研究所(2008)	岐阜県恵那市	木曾川北(笠置町、中野方町、飯地町)	山仕事(林業、採集、工芸)、養蚕、山間地での農業
5	山	恵那:奥矢作	山里文化研究所(2009)	岐阜県恵那市	奥矢作(上矢作町、串原)	山仕事(林業、採集、工芸)、養蚕、山間地での農業
6	山	豊根村	環境省中部地方環境事務所(2010)エコミュージアムを活用した持続可能な地域創出のための調査 報告書	愛知県豊根村	富山	焼畑、山の神
7	里	駒場	愛知県民俗資料緊急調査報告(1973)	愛知県豊田市	駒場	地形に応じた土地利用、農業。流通往来。
8	里	霞堤	環境省中部地方環境事務所(2010)エコミュージアムを活用した持続可能な地域創出のための調査 報告書	愛知県豊川市	当古	霞堤、遊水池
9	里	古嵐	豊田市矢作川研究所「古嵐プロジェクト」	愛知県豊田市	古嵐	水運、土場、水制工
10	海	鳥羽	愛知県民俗資料緊急調査報告(1973)	愛知県幡豆町	鳥羽	沿岸部の暮らし。漁業。肥料としての貝や藻の入会権設定
11	海	佐久島	愛知県史民俗調査報告書2 西尾・佐久島(1999)	愛知県一色町	佐久島	漁業(ナマコ漁、アサリ)
12	海	篠島	山里文化研究所(2009)	愛知県南知多町	篠島	漁業(タコ、アサリ)
13	海	六条潟	環境省中部地方環境事務所(2010)エコミュージアムを活用した持続可能な地域創出のための調査 報告書	愛知県豊橋市	六条潟	漁業(アサリ、海苔)

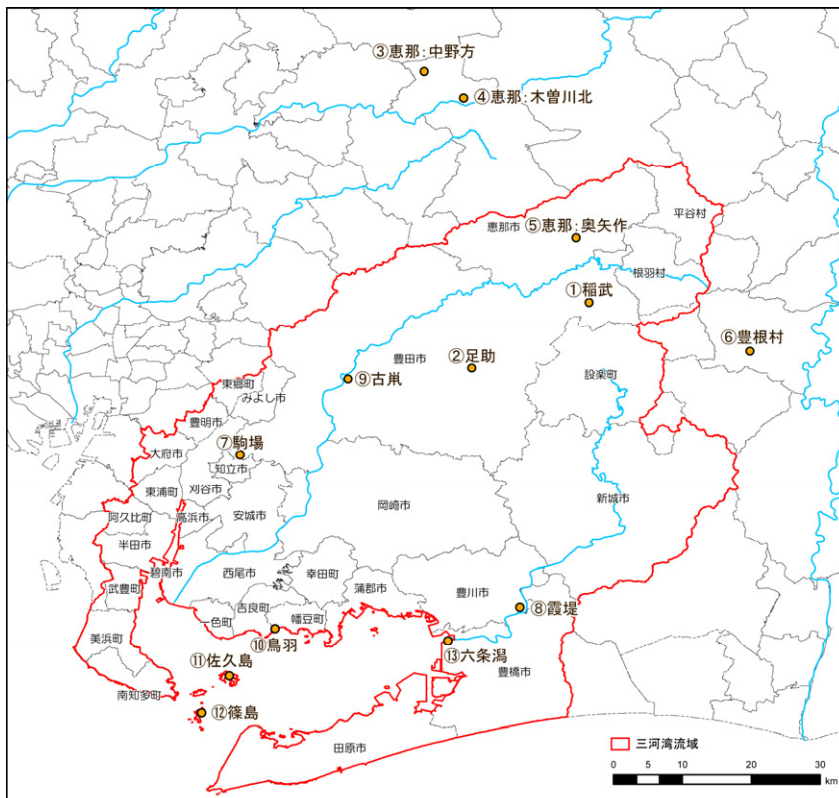


図 2-5：調査対象候補地の位置

(2) 調査対象候補地の概要

1) 稲武(愛知県豊田市)

長野県から続く木曽山脈の南端にあたり、矢作川上流域に位置し、矢作川水系の根羽川、名倉川、黒田川が流れる。一帯は奥三河と呼ばれ、山の恵みを生かした生業・文化が継承されている地域である。稲武は明治期以降に古橋源六郎の指導を受けて植林を進めた地域で、山林は雑木山、採草地、山畑、炭焼き山、植林山などに区分され、年間を通じて利用されてきた。山林から資源を一方的に採取するのではなく、人の手が加わり適度に管理されることによって山林は再生され、山の資源は持続的に利活用されてきた。

表2-7：奥三河の昭和前期の山の一年

(新暦)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
奥山	枝打ち・伐採		苗木の植林			植林木の下刈り			植林木の枝打ち、雑木・植林木の伐採			
	炭焼き		炭焼き		炭焼き		炭焼き		炭焼き		炭焼き	
	タキギ拾い		タキギ拾い		タキギ拾い		タキギ拾い		タキギ拾い		タキギ拾い	
	ヒクサ背負い		ヒクサ背負い		ヒクサ背負い		ヒクサ背負い		ヒクサ背負い		ヒクサ背負い	
	山菜取り		山菜取り		山菜取り		山菜取り		山菜取り		山菜取り	
	イチゴ取り		イチゴ取り		イチゴ取り		イチゴ取り		イチゴ取り		イチゴ取り	
里山	枝打ち・伐採		苗木の植林			植林木の下刈り			植林木の枝打ち、雑木・植林木の伐採			
	葉枯らし		タケ・フシ木の搬出		タケ類・フシ木の伐採		葉枯らし		葉枯らし		葉枯らし	
	シイタケのポタオコシ(翌年)・ポタヒログ・取り入れ		シイタケのポタオコシ(翌年)・ポタヒログ・取り入れ		シイタケのポタオコシ(翌年)・ポタヒログ・取り入れ		シイタケのポタオコシ(翌年)・ポタヒログ・取り入れ		シイタケのポタオコシ(翌年)・ポタヒログ・取り入れ		シイタケのポタオコシ(翌年)・ポタヒログ・取り入れ	
	山菜取り		山菜取り		山菜取り		山菜取り		山菜取り		山菜取り	
	イチゴ取り		イチゴ取り		イチゴ取り		イチゴ取り		イチゴ取り		イチゴ取り	
	ホート捕り		ホート捕り		ホート捕り		ホート捕り		ホート捕り		ホート捕り	
耕地	カヤ背負い		カヤ背負い		カヤ背負い		カヤ背負い		カヤ背負い		カヤ背負い	
	春蚕の桑摘み		春蚕の桑摘み		春蚕の桑摘み		春蚕の桑摘み		春蚕の桑摘み		春蚕の桑摘み	
	夏蚕の桑摘み		夏蚕の桑摘み		夏蚕の桑摘み		夏蚕の桑摘み		夏蚕の桑摘み		夏蚕の桑摘み	
	秋蚕の桑摘み		秋蚕の桑摘み		秋蚕の桑摘み		秋蚕の桑摘み		秋蚕の桑摘み		秋蚕の桑摘み	
	タシバ刈り		タシバ刈り		タシバ刈り		タシバ刈り		タシバ刈り		タシバ刈り	
	ハタシバ・マヤシバ刈り		ハタシバ・マヤシバ刈り		ハタシバ・マヤシバ刈り		ハタシバ・マヤシバ刈り		ハタシバ・マヤシバ刈り		ハタシバ・マヤシバ刈り	
家屋敷	柿		柿		柿		柿		柿		柿	
	タキギの収納		タキギの収納		タキギの収納		タキギの収納		タキギの収納		タキギの収納	
	カヤ・ヒクサの収納		カヤ・ヒクサの収納		カヤ・ヒクサの収納		カヤ・ヒクサの収納		カヤ・ヒクサの収納		カヤ・ヒクサの収納	
	アワ・ヒエコナシ		アワ・ヒエコナシ		アワ・ヒエコナシ		アワ・ヒエコナシ		アワ・ヒエコナシ		アワ・ヒエコナシ	
	イネ・ソバ・マメ・アズキコナシ		イネ・ソバ・マメ・アズキコナシ		イネ・ソバ・マメ・アズキコナシ		イネ・ソバ・マメ・アズキコナシ		イネ・ソバ・マメ・アズキコナシ		イネ・ソバ・マメ・アズキコナシ	
	アワ・ヒエコナシ		アワ・ヒエコナシ		アワ・ヒエコナシ		アワ・ヒエコナシ		アワ・ヒエコナシ		アワ・ヒエコナシ	
遊び日	旧正月 モチイ		山の講		彼岸中日		盂蘭盆(旧暦)		端午節供(旧暦)		盂蘭盆(旧暦)	
	盆(月遅れ)		彼岸中日		秋祭り		山の講		白山祭り・花祭			
(新暦)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月

東栄町古戸を事例に調査
出典：愛知県史民俗調査報告書3 東栄・奥三河「山の所有とその利用」(2000) 伊藤良吉

2) 足助(愛知県豊田市)

豊田市中東部に位置し、標高 500m 付近に民家が点在する神越川、巴川、足助川の深い谷に囲まれ、南が高く分水嶺になっている。日照時間は短く冬期は西北の季節風を受ける。主に農業を中心とした暮らしが営まれ、戦前まで養蚕と炭焼きも盛んに行われていた地域で、四季を通じて多様な年中行事が受け継がれてきた。古くは、中部山岳地域と太平洋岸各地を結ぶ交通の要衝で、信州への伊那街道、東美濃への美濃街道、名古屋への伊保街道、岡崎への七里街道がここで分岐していた。信州への道は、縄文時代には諏訪湖周辺から黒曜石を運んだ道であり、戦国時代は甲府の武田信玄などの軍兵が行き来し、善光寺参りの善男善女が利用したため、「ぜんこうじ道」とも呼ばれていた。近世には塩の道として、足助の商人たちに豊かな経済力をもたらした。明治時代になり、盛んな物資輸送で足助の町はさらに繁栄したが、明治 40 年(1907 年)に国鉄中央線が 30km 北の東濃地域に開通すると、信州と結ぶ交通の要衝としての役割が低下したが、伝統的な町並みはよく保存されている。

表2-8：住民の生産暦

月	種類	いね	むぎ	雑穀、やさい	養蚕	山仕事、炭焼き	年中行事
1月						炭焼き 伐採	
2月							節分 旧正月
3月			中うち 手入れ	じゃがいも	くわ畑の手入れ	植林	彼岸 初うま
4月				なす、きうり ささげ とうがん			三月せつく、おくわさん
5月	苗代 たねまき			かぼちゃ あわ、きび			麦のくせおくり 八十八夜 おしゃかさん
6月	田うち しば刈り 田植え			たかきび、ひえ さつまいも			五月せつく 入梅
7月	1ばん草		かりいれ、 ちょうせい		夏蚕	植林の下刈り	農休み おかたさん お不動さん、天王さん 百万遍、お地藏さん お薬師さん
8月	2ばん草				秋蚕		いねのくせおくり 盆、夜念仏
9月				火根な、かぶ そば、なたね	晩秋蚕		二百十日 うらぼん、行者さん 彼岸 郷社まつり
10月		かりいれ					氏神の祭礼 風神さん お不動さん
11月		いねごき うすひき	麦まき				お薬師さん お地藏さん
12月			手入れ		くわ畑の手入れ		山の講、秋葉さん こぼし休み

〈話者 原田市太郎 男 72歳〉

出典：愛知の民俗 愛知県民俗資料緊急調査報告（1973）愛知県教育委員会

3) 恵那：中野方（岐阜県恵那市）

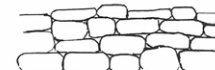
恵那市北部に位置する山村で、矢作川の源流域にあたる。平成11年（1999年）には地区内の坂折棚田が農林水産省の「日本の棚田百選」に選定され、改めて棚田や里山の文化が注目されている地域である。

棚田では急な斜面に田畑をつくる方法や石積みの技術が受け継がれ、集落ではイノシシ等の狩猟やへぼ²、山菜とり、ウナギやアユの川漁など、山や川の恵みを楽しむ暮らし・文化が継承されている。石積みには数種類の方法があり、その土地において地形や地質、水の流れ等の自然条件を上手く生かすことができる最適な方法が用いられている。

布積（横積・レコ積）



布積 乱積



谷積

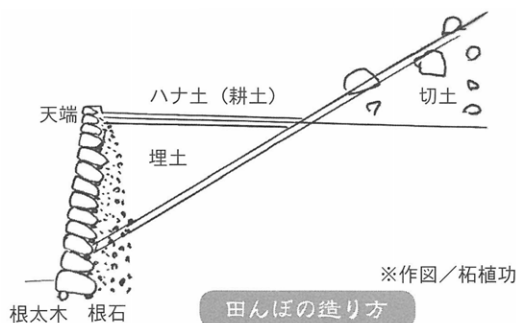


図2-6：田をつくる方法

出典：いのち満つる山河 中野方（2010）山里文化研究所

図2-7：石積みの種類

出典：いのち満つる山河 中野方（2010）山里文化研究所

² 地中に巣をつくる「クロスズメバチ」のことで、東濃地方では、山里の貴重な珍味として親しまれている。

4) 恵那：木曾川北（岐阜県恵那市）

恵那市北部の笠置町、中野方町、飯地町を含む山村で、矢作川の源流域にあたる。鳥屋を使った鳥猟やへぼ、山菜とりなど山の恵みを使った暮らし・文化が継承されている。鳥屋とは、かすみ網³で鳥を獲る場所のことで、広葉樹のある渡り鳥が通過する場所に設置された。かすみ網は絹で編んだものを用い、狩猟の時期が終わると柿の渋で硬くするなど、道具を大事にする心が培われてきた。

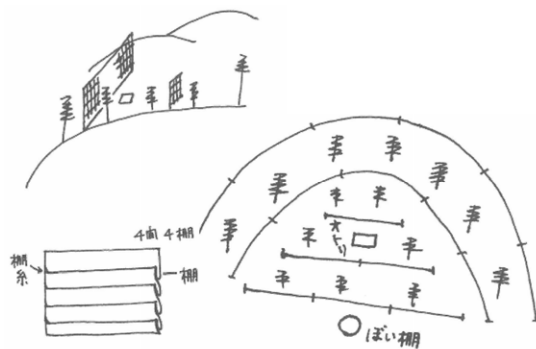


図 2-8：鳥屋の構成

出典：恵那・山里の聞き書き 2008（2008）山里文化研究所

5) 恵那：奥矢作（岐阜県恵那市）

恵那市南部に位置する山村で、矢作川の源流域にあたる。林業、工芸品、漁業（築漁）などが行われ、特に「東濃ひのき」の産地であり、古くからヒノキ材の生産が盛んな地域である。また農地面積の狭さや後継者不足などの課題を抱えながらも、稲作を中心として収益性の高い作物の生産選定を進め、こんにゃく芋、夏秋トマトなどの産地化を進めるとともに、こんにゃく、ハム、へぼなどを活用した「食の観光地」づくりを進めるなど、山の恵みを生かした地域づくりが進められている。



自然の恵みを生かした料理法

出典：恵那市立串原小学校資料

6) 豊根村（愛知県豊根村）

愛知県の北東部に位置し、東は静岡県、北は長野県と接する。木曾三系の南端に属し、天竜川流域の山村で、愛知県内で最も人口の少ない自治体である。三遠信（三河、遠江、信濃）の国境の地にあたり、古くから民俗の宝庫といわれる。民俗芸能・花祭りは豊根村古真立地区が発祥の地で、今日でも「花祭りの里」といわれ、正月には村内の各所で夜を徹して賑やかに催されている。また富山地区では地域住民やNPO等の協働・連携により、焼畑農業を体験するツアー等が行われ、地域の伝統的な技術・知恵を継承する取組が行われている。



図 2-9：花祭りの伝承地の分布

出典：あいちの祭り行事調査事業報告書（2001）愛知県

³ 細い糸で編んだ網で、野鳥を獲るために用いる（出典：愛知の祭り行事調査事業報告書（2001）愛知県）

7) 駒場 (愛知県豊田市)

中下流域の農村で、沖積層の低地では水田、洪積層の微高地では畑地および集落地が形成されている。主な生産は米・麦・綿等で、綿の栽培は昭和初期まで行われ、養蚕も昭和10年頃まで行われていた。昭和初期まで知立の慈眼寺境内において三河各地より馬が集められ、馬市が立ち、特に明治前半には馬の取引が盛んに行われていた。稲・麦・綿等の生産を中心とした暮らしが営まれ、氏神祭りに献馬を奉納するなど馬と関わりのある年中行事もみられた。

表2-9: 住民の生産暦 (明治期)

月	稲 (明治ごろ-昭和初)	麦 (明治ごろ)	綿 (明治初ごろ)	そば (明治20年ごろ)	年中行事
1月		↓ 麦ふみ ↑ 肥入れ	↑ 機織		年頭廻り(1) 荷ない初め(2) 髪上げ(15)
2月		↓ 中うち			節分(3) 立春(4) 涅槃会(15)
3月		↑ ねよせ	↑ 種まき	↑ 種まき	ひな節句(3) 下島祝賀祭(18) 彼岸会(22) 降誕会(8)
4月	↑ 苗床作り ↓ 親おろし				
5月	↑ 田打ち	↓ 麦かり		↑ とり入れ	菖蒲節句(5)
6月	↑ 田植				入梅(梅とり入れ)(10)
7月	↑ 一番草 ↓ 二番草	↑ 麦ちようせい			農休み(30日) 七夕まつり(7)
8月	↑ 三番草 ↓ あげ草				盂蘭会(13-15) 地藏まつり(24)
9月			↑ 綿とり入れ	↑ 種まき	彼岸会(23)
10月					氏神まつり(16)
11月	↑ かり入れ	↑ 麦おこし田		↑ とり入れ	山の講(23)
12月	↑ ちようせい	↑ 麦まき	↑ 綿打 ↓ 糸つむぎ		報恩講(21-25) 大みそか(31)

〈話者 清水善造 男 80歳〉

出典: 愛知の民俗 愛知県民俗資料緊急調査報告(1973) 愛知県教育委員会

8) 当古 (愛知県豊川市)

旧当古村を含め豊川沿岸一帯は洪水の多く、5~6年おきに大洪水に見舞われた場所で、洪水対策として築かれた霞堤が残存する。霞堤とは、豊川の本流が増水した時に本流より堤と堤の切れ目に溢れた水を引き入れて流水の勢いを弱め、堤防の決壊を防ぐ特有の仕組みを持ったもので、水を誘導することにより、堤防の決壊を防いできた。当古では不連続堤の開口部で本流から遊水地に逆流する口のことを「差し口」、逆流する水のことを「差し水」と呼んでいる。洪水後は堆積物により肥沃な土壌に恵まれ、遊水地には多様な生物が生息していた。

昭和40年(1965年)に豊川放水路の完成により、豊川の右岸にあった五ヶ所の堤防の不連続部分は新たに築造された大堤防によって締め切られた。今日では左岸の4ヶ所に不連続部分が存続している。

豊川の下流域に九ヶ所の差し口があり、右岸は上流部から東上、豊津と二葉、三上、当古、大村の5ヶ所、一方、今も存在する左岸を上流からみると、江島、賀茂、下条、牛川の4ヶ所である。

また、多くの家々は家の土台部分を土盛りしてカサ上げして築き、洪水による浸水をなるべく避けようとした。浸水頻度が高い当古ではカサ上げ高が1 mを超える例もみられ、また土盛りした側面は流水によって土が流出しないように大きな円礫で覆われた。社寺も同じく洪水を意識して建立され、神者の位置は標高8 m 以上、寺の位置は 7.5m ~ 8 m とムラで最も高い位地に神社を作り、緊急の際には境内に避難できるように考えられるなど、洪水に対応した特有の空間構成を有している。

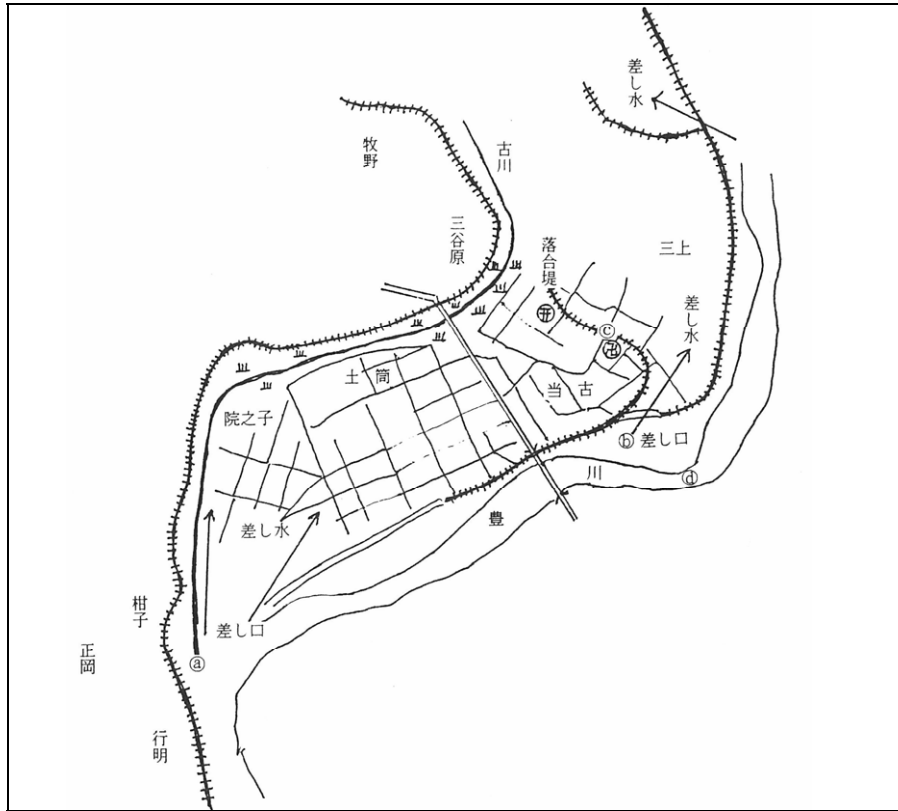


図 2-10 : 昭和 37 年 7 月 28 日豊川洪水における当古付近の霞堤と差し水

出典：豊川市 当古の民俗 (1996) 近畿大学文学部

9) 古峯 (愛知県豊橋市)

矢作川中流域に位置し、水運など川と密接に関連した暮らしが営まれてきた。水道給水やプールの整備に伴い、人々の暮らしは川から遠ざかっていったが、平成 3 年 (1991 年) 近自然工法による水制工が施工されたのを契機に、人と川の結びつきが見直され、平成 11 ~ 13 年度 (1999 ~ 2001 年度) に行われた古峯プロジェクトなど、地域住民や研究機関、行政等の協働・連携による川づくり・地域づくりが行われている。



糸状緑藻類モニタリング調査 (生物班)



聞き取り調査 (人文・環境班)



図 2-11 : 古峯プロジェクト調査風景

出典：豊田市矢作川研究所資料

10) 鳥羽 (愛知県幡豆町)

三河湾に面する集落で、扇状洪積平野に位置する。古くより農耕を営み養蚕を副業としてきた地域で、崎山集落のみ漁業が行われ半農半漁の営みが行われてきた。漁場は伊勢港から渥美半島沖の近海で、車エビ、カニ、かれい等を主とし、冬期にはノリの採取も行われてきた。

神明社で継承されている火祭は、旧正月7日に「カンチ」と「フクチ」を象徴する2基の大きなすずみに火をつけ、燃え具合によって2つの土質の豊凶を占う地域固有の神事が継承されており、県の無形文化財に指定されている。



図 2-12 : 神明社の火祭

出典：幡豆町資料

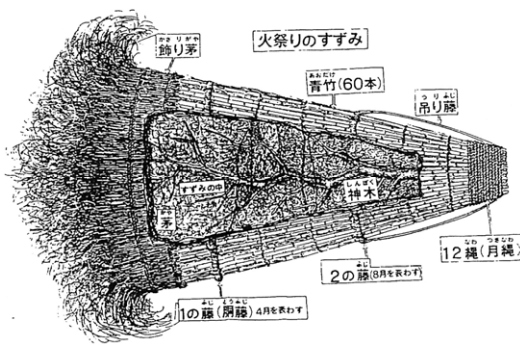


図 2-13 : すずみの構成

出典：あいちの祭り行事調査事業報告書(2001)愛知県

11) 佐久島 (愛知県一色町)

三河湾に浮かぶ島の一つで、採藻、刺網、小型底引き網などが主な漁業形態の漁村で、近年ではアートイベントなどの取組も行われている。小型底引き網の代表的な漁法にナマコ漁(コノワタ)があり、12月から3月にかけて「ナマコヒキ」と呼ばれる漁法が行われている。また、東・西地区各々にはエビス祠があり、コンピラサンが漁業関係者の家の神棚に祀られているなど、漁業信仰が受け継がれている。



図 2-14 : ナマコ漁の漁場を示す沿岸地名

出典：愛知県史民俗調査報告書 2 西尾・佐久島「佐久島の漁業」(1999)野地恒有

12) 篠島 (愛知県南知多町)

愛知県知多半島の先端、師崎港から 4 km の位置にある三河湾口に浮かぶ島で漁村である。昔より「東海の松島」と呼ばれ、周囲 6 km の海岸線は変化に富み、また、おんべ鯛など伊勢神宮と結びつきのある祭事も継承されている。

島の基幹産業である漁業は、シラス、イカナゴ等を対象とした沿岸域での漁船漁業とノリ等の養殖が中心で、水揚げの 100% 近くが島内で加工等されている。「麦の穂でシラスの動きを知った」などの環境を読む知恵や、しろめ漁をはじめ刺し網漁、流し網漁など多様な漁法が継承されている。

[麦の穂でシラスの動きを知った]

今はちりめんじゃこでも、試験場と相談して「卵じゃ今どうなっとるで、いつ頃に出てくるか」とか、そろばんはじいてやっとならしいけど、昔は一回も試験場と話したことはないもんねえ。自分の腕で「ここで漁がある」と思えばそこへ行って、それなりに船頭は漁をしてきよったもんだわ。

わしの兄貴が、シロメで有名なくらい最高に儲ける人だけど、兄さんは、三月、四月頃になると、山の畑にいくらでも麦を植えたよって。ほいで「やー、一回見に行くぞ！」って言うと、畑に麦を見に行くと「一つの畑で何本黄なみがかかってきた。まあや、ぼちぼちシロメが、どこどこまで来とるで行くか」ってって（笑）

「麦の穂の枯れ具合を人に見られるといかん」って。五時間も六時間も無灯で、電気消やしてって船で走って行っただよ。偉いもんでね、網を引くとシロメがいっぱい袋に入っとうだわ。ほいでサーと戻ってくる。そういう勘で魚獲りおったの。シロメの通る道がわかるし、日が上がってくると、またシロメが出てくるとか、そういう、勘が働くだがね。昔の人が勘だけで動いとったんだもん。ああ、そりやすごいさ。

出典：篠島 海こそすべて（2009）NPO 法人 山里文化研究所

13) 六条潟（愛知県豊橋市）

六条潟は豊川河口域に位置し、室町時代から農家が兼業としてハマグリやアサリを採取し、近隣の町や村に小売りするなど、古くからアサリ、ハマグリ最適な漁場として知られてきた。アサリ種子が繁殖する漁場で海の資源を計画的に管理してきた歴史があり、現在もなお三河湾および伊勢湾に稚貝を供給している。また豊川河口域は海と川の接点として上流の吉田湊より優れた条件にあり、近世から近代にかけては吉田湊の外港としての役割を果たした。



昭和初期の六条潟の海苔採取の風景



吉田城絵図

出典：六条潟と西浜の歴史（1981）前芝漁業協同組合

図 2-15：六条潟のかつての様子を示す資料

(3) 調査対象地区の選定

調査対象候補地のうち、聞き書きによる調査の実施可能性等の観点から有識者等のヒアリングをふまえ、かつ「 . 民俗に関する調査・研究が行われている地区」、「 . 山エリア（里山）、里エリア（川辺）、海エリア（海辺）のそれぞれから選定」、「 . 三河湾に流入する主要河川の上流域・中流域・下流域のそれぞれから選定」の3点を満たすように、調査対象地区を下表の3地区とした。

表2-10：調査対象地区の概要

地区名	地域名称	区分	流域区分	流域名	既存調査・資料	地区概要
豊田市梨野地区	稲武	山	上流域	矢作川流域	愛知県民俗資料緊急調査報告(1973)	民俗調査が多く行われている奥三河地方に位置し、里山の恵みを生かした暮らしが営まれてきた。
豊田市古胤地区	古胤	里	中流域	矢作川流域	豊田市矢作川研究所「古胤プロジェクト」	筏師など川と密接に関連した生業、暮らしが営まれてきた。豊田市矢作川研究所が長期にわたり調査・研究を行ってきた地域で、近自然工法による水制工の施工などの取組も行われている。
豊橋市前芝地区	六条潟	海	下流域	豊川流域	環境省中部地方環境事務所(2010)エコミュージアムを活用した持続可能な地域創出のための調査 報告書	豊川河口に位置し、海苔養殖や白魚漁などの近海漁業が営まれてきた。三河湾港整備工事に伴い漁業権を放棄したが、種子アサリの漁のみ継続している。